

徳用の歴史

徳用地区では、室町時代（1300～1400年代）の集落跡の遺跡がみつかっています（徳用クヤダ遺跡）。この遺跡では大きな溝で囲まれた屋敷やしきが見つかっており、地域を治める有力者が住んでいたと考えられます。

この時代の徳用地区周辺は、「中興保」なかおきと呼ばれる行政区域に属していたと考えられます。延徳三年（1491）には歌人の冷泉れいぜいため為広ひろがこの辺りを通った際に、その地名を「ナガオキ」と記録しています。

史料にはじめて「徳用」の地名が出るのは、正保三年（1646）の「正保郷帳」しょうほうごうちょうですが、それ以前からも多くの人々がこの地域で生活を営んでいたことがわかります。



屋敷を囲む大きな溝と建物の跡（徳用クヤダ遺跡）